

「税金のおかげで救われた命」

福岡市立箱崎中学校

松田 華音

ある日、母と一緒に家の片づけをしていたときに、幼いころの姉のアルバムが出てきました。それを見ているうちに私は、姉の幼いころについて知りたくなって、母にいろんなことを聞いてみました。

私の姉は「早産児」としてうまれてきたそうです。早産児とは、体の機能がまだ未熟な状態で予定日より早くうまれてくることです。そのため、体が小さくてすぐに弱ってしまう可能性が他の人よりも高いため、いろんな管理が必要になり、高額な医療費がかかってしまいます。少しのばい菌やかぜでも重症化してしまい、命を落とす危険もあります。また、姉はうまれたときから視力が弱かったため目の治療を受けており、今も続けています。そのような状態でうまれてきた姉は、「NICU」という新生児集中治療室に入って呼吸などの助けをしてくれていたそうです。その機関は、姉のように早産児としてうまれてきた新生児に高度な医療を施します。しかし、「NICU」というものはとても費用がかかってしまいます。そこで助けてくれたのが私たちが日々払っている税金です。なんと数百万円もする医療費を全額税金がまかなってくれたのです。母は「本当に助かったし、本当に感謝している」と話していました。そのため、金銭的な面ではほとんど負担がなかったそうです。そのおかげで病気や治療と一緒に向き合うことができたそうです。

うれしいことに姉の目は少しづつですが確実に視力が戻ってきて今では短時間であればメガネなしでも過ごせるほどになっています。そして、今は高校生として毎日元気に学校に通っています。これから、大学を卒業し、就職をすると、様々な税金を払わなければいけない場面が常にあります。ですが、幼かったころの姉のような子どもたちの命を救い、家族やその周りの人たちを笑顔にすることができるのであれば、「今、私が税金を払っていることで誰か困っている人を救うことができるのだ」と思い、税金が高くなっている今現在でもむしろ良い気持ちでいられると思います。

税金によって助けられた人やその助けられた人の家族、その人の周りの人たちが次の世代へと輪のようにつながっていけば、今よりもさらに笑顔あふれる幸せな社会になっていくと私は思います。

だから私が社会人になり、税金を払うときには、「この税金が今後誰かの役に立つのだ」という気持ちで払おうと思います。また、いとこや友人などの周りの人や身近な人たちに「税金はとっても大切で、人を救えるかもしれない」ということを広めていこうと思います。